

全労連社会保障闘争本部ニュース

NO.137

全労連社会保障闘争本部発行

2021年2月2日



いのちと健康を守るはがき署名ポストイン行動

地域医療の拡充を求め、署名はがき8,500枚配布 広島自治労連



国と厚生労働省が、統廃合や再編の「再検証」を要請する全国424（のちに440）の公立・公的病院の名前を2019年9月に公表したことから「いつでも、どこでも、誰もが、必要な医療を受けられる」ことを求めて結成された<424 共同広島>。学習会や自治体キャラバンに取組むほか、広島県で名指しされた13（のち12）病院中4か所周辺で11月21日～12月6日の2週間「いのちと健康を守るはがき署名」ポストイン行動を展開し、8,500枚を配布しました。



労働組合だけでなく、障がい者団体・地域の生健会・市議会議員も参加し大盛況。広島自治労連は11月21日（土）庄原日赤病院、11月29日（日）県立障害者リハビリテーション病院、12月6日（日）吉島病院周辺行動に組合員のべ28人が参加しました。庄原日赤病院での行動には、庄原・三次地域だけでなく広島市内からも多数かけつけ、県北地域最大級の行動に。庭先で作業中の方に説明し署名協力をお願いすると「これから仕事に行くから、もう1枚はがきをちょうだい」と温かい言葉をいただきました。（自治労連ひろしま2020年12月号より）



いのち署名行動に

「頑張ってください」「5枚もらおう」などたくさんの反響

【自治労連愛知県本部】共感と激励の声集まる 1.8「いのちを守る」新春署名宣伝行動

自治労連愛知県本部は1月8日、闘争委員会前の時間を利用し名古屋市営地下鉄黒川駅周辺で「いのち署名」宣伝行動を実施し3単組・県本部10人が参加しました。1時間で24筆の署名が集まり、ティッシ

ユに入れたハガキ署名も 73 枚配布しました。

署名してくれたのは親族に医療関係者がいる方、子連れのお母さん、保健所の嘱託で働く方など、本当に様々な方たち。「頑張ってください!」「近所のお友だちにも書いてもらうね」「親族が病院勤務で感染者が出たから心配」「姉が看護師、本当に心配。姉は親の葬式にも参列できなかった」「知り合いに配るからハガキ5枚貰うね!」など、たくさんの声が寄せられました。

行動に参加した仲間からは「ハガキの受け取りがすごくいい」「向こうから寄ってくる」「ハガキの受け取りを拒否されたと思ったら、その場で書いてくれた」「医療関係者に協力したいけど独力ではできない人たちに“これなら私でもできる”と響く署名」「取り組んでみて改めて意義を実感」「こちらが元気をもらえる」「こんなに楽しい署名・宣伝は初めて」との感想が寄せられました。

さあ次はあなたの番。単組で、地域で、共感の輪を広げましょう!

(自治労連愛知県本部 2021 春闘推進ニュース No.4 より)



【自治労連本部】いのち署名はがき版ポストイン行動 本部周辺で 2,200 枚配布

自治労連本部は 2020 年 12 月 23 日 (水) にポストイン行動を実施し、本部書記局・共済事務局・研究機構から 25 名が参加。自治労連本部周辺の戸建て住宅を中心に実施。1 人 100 枚のはがき版署名を、約 1 時間の行動で合計 2,209 枚配布しました。

ポストインから 5 日後の 12 月 28 日 (月) には、早くも 4 枚の返送が。はがき版作成を依頼した業者や本部職員の自宅周辺で配布したはがきの返送もあり、2021 年 1 月 8 日 (金) 現在、はがき 15 通で 31 筆の署名が届けられています。

メッセージ欄には「夫が都立病院でお世話になりました。都立病院を減らさないで。母の介護が両立できたのも近い病院があったおかげです」「医療従事者・保健所の皆様のおかげで私共の健康が守られていることをひしひしとを感じる年でした。皆様のお仕事の負担が少しでも軽くなるよう、人員の増員が国の施策として早急に取り上げられることを願います」「医療というものは一般的な物の売買とは違い、税金が使われて成り立つものではないのでしょうか。こういう時こそ税金を国民の命・生活のために投入すべきです」といったメッセージが寄せられました。

自治労連本部では引続き署名はがきの集約と分析を進めるとともに、再度のポストイン行動も取り組みます。



労働者の雇用安定、医療従事者・医療経営を守る施策の強化を求める

秋田県と労働局に「大雪被害対策」と「コロナ災害克服」に関する要請書を提出・懇談～

1月13日、秋田県知事と秋田労働局長宛てに「大雪被害対策」と「コロナ災害克服」の
に関する要請書を提出し、懇談をおこないました。要請・懇談には越後屋事務局長、田中幹
事、茂内高教組書記長が参加。

秋田県要請（写真上）では、雇用労働政策課長および担当主幹と懇談。課長より「大雪
に関する対策本部を立ち上げ対策を強化している。雪下ろし経費の負担は大きいことや、
農業被害等の調査も今後おこなわれると思う」
との見方を示されました。

また、コロナ災害の克服に関しては、「医療労働者等への風評被害を防止するための条例制定
を含め対策を強化する」「新型コロナウイルス感染拡大を経験し、（病院の統廃合縮小の）計画を
立てた時とは事情も違ってきているのではない
か」との認識を示されました。

さらに、女性労働者の雇用対策については、
「元々、再就職支援事業を昨年から実施しており、コロナ災害での離職についても当然対象と
している」ことが述べられました。県労連からも
実態を把握し、労働局などと連携し対応の強化を改めて要請しました。

秋田労働局要請（写真下）では、雇用環境・均等室管理官および室長補佐と懇談しまし
た。要請については、「（多方面にわたるので）担当部署に伝え対応するようにしたい。
雇用の安定に今後も努力していく。大学生のアルバイト先が少なくなって、学生生活に支
障をきたしかねないとの指摘については、情報を共有し対処していきたい。ハローワーク・
監督署の増員要請については本省に伝えたい」と述べられました。高教組茂内書記長から、
高校生の就職状況は悪くないが、コロナ対策で自宅待機が長期にわたる事例や、事業場が
なくなるなどの事例が昨年報告されている。こうしたことについての対策を進めてほしい
と、改めて要請しました。



いわて労連 2. 7ローカルビッグアクション 予定

いわて労連は、2月7日「生活保障に税金まわせ！」の一点で、地域労連単位でのデモ、スタンディング、
集会、宣伝などを行って、春闘前段の山場を形成していきます。岩手では「変えるリーフ」と「いのち署名」
の全戸配布を各地域に提起。

盛岡市内では、「2. 7ローカルビッグアクション」盛岡行動として、

2月 7日（日）10時～12時頃まで、意思統一集会を行い、全戸配布行動、署名宣伝行動
全戸配布は、冬場で足元が危険なので、今回は公営集合住宅での配布行動。

2回目以降は仙北地域や山岸・松園地域などで全戸配布も検討中。